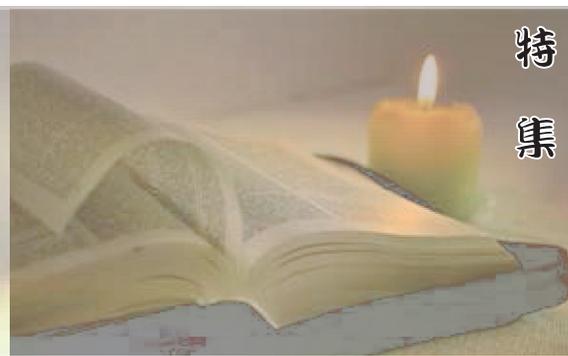


特集

宣教に出かけよう



◆ 尼崎ブロック合同 ◆



酒井補佐司教、司祭たちから接手を受ける受堅者たち

10月8日(日)A年、年間27主日。酒井俊弘補佐司教とデリアジョバンニ神父、山口武史神父による共同司式により行われた。

受堅者は15名(尼崎教会10名 園田教会3名、武庫之荘教会2名)で約130人が参列した。その後お祝い会となった。尼崎教会は唐揚げ、園田教会はお菓子、飲み物、武庫之荘教会はサンドイッチを含むパン類で、お祝い会が進められた。

福音はマタイ21、「……主人は最後に自分の息子を送り……」という内容で、説教では次のような話をしてくださった。スペイン人、アルフォンソ・ロドリゲスという聖人のお話だ。

「彼は14才の時に父を亡くし仕事を引き継ぎ、26才の時に結婚を子どもにも恵まれたが、その後妻や子どもたちが相次いで亡くなり、商売も上手く行かなくなり、その後、全ての人生を神に委ねたいとの思いがつのり、34才の時にイエズス会の入会を望んだ。しかし、年齢の事があり入会を断られたが、6年間諦めず門を叩き続けた。そして、入会が認められ、その日から46年間門番として働き続けた。

来る日も来る日も訪れる人びとを迎え取り次ぎ、相手が誰でも、どのような立場であっても全て平等に接し、全ての来客者に『イエス様が来られました』と、伝えた。

その後、これらの事が噂になり、彼は天使だと評判になった。

当日の様子

尼崎教会、園田教会ともに日本語以外のミサがあるためこの日も国際色豊かなミサだった。聖歌も日本語以外英語、フィリピン語で唱えられたのを味わっていた時、国際色豊かなのではなく私たちは全て神様から創られ、今日の説教にもあったように偉い人もなく、性別もなく、国籍もなく、肌の色、信仰の違いもなく一つ。百人いれば百通りの思い考えがあり、それぞれ違って当たり前。ユニークな個性があり、その中で一つになる目的は同じ思いなのに、私たち人間が勝手に国境を作り、国を分け、別々の民族にしたいだけ。私たち大人が、この堅信の秘跡を受けた若者が、神様からの贈り物の本来の美しい地球に戻すための働きができるよう、勇気と知恵を持って彼らに残しバトンタッチができればと思う。

私が常々思うのは一人の司祭の言葉です。

Don't worry. GOD doesn't mind, don't rush, don't rush.

「大丈夫だよ。神様は気にしてないよ。ゆっくり、ゆっくり」

受堅者の感想

堅信式で尼崎教会のジョバンニ神父様に、覚えてもらっていたのに驚きました。私はそれがとても嬉しかったです。堅信式を迎えられたことに感謝します。



◆ 高槻・茨木教会 ◆

10月22日(日)、清川泰司神父が共に主任を務める高槻・茨木両教会合同堅信式が行われた。受堅者は両教会5人ずつで、大阪高松大司教区として前田万葉大司教が司式する初めての堅信式となった。

今回の堅信式は、前回から4年がたち、コロナ禍後ようやく教会活動が始まりかけたばかりのタイミングであった。この間、教会学校などでのつながりも希薄になっていて、果たしてどれだけの希望者が集まるのか不安もあったが、希望者は暑い時期、また学校での活動などに追われている中、熱心に準備の講座に取り組んできた。

前田大司教は説教において、当日の朗読聖書を引き、またちょうど世界宣教の日にも当たることも指摘して、互いに赦しあい、愛し合う心をもって平和を作り出し、聖霊を受けて、それぞれの場でキリストの証人として宣教に出かけていくようにと、受堅者たちを励ました。そして最後に、現在バチカンで開かれているシノドスにも触れ、「十月や 堅く信じて シノダリティ」の句を贈った。受堅者たちにとっては、堅信を受けて大人になった感じがし、大人の共同体への仲間入りできたように感じたようだ。式の最後には、この機会に久しぶりに



聖堂で前田大司教と記念撮影

に聖書の言葉などを深く学びなおし、多くの大切なメッセージが含まれていることに気づかされたこと、感謝の言葉を語った。

◆ 箕面教会 ◆

11月12日(日)箕面教会にて10時より酒井俊弘補佐司教と矢野吉久神父の共同司式により堅信式が行われた。

受堅者は9名。健診と堅信をかけたたとえ話から『『けんしん』を受けることが目的ではなく、その時に向かって今をどう生きるかが大切である』(マタイ25・1-13)というお話。「だから目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから」。

たくさんの方が受堅され、信徒一同大きな喜びを分かち合った。酒井補佐司教をお迎えし、ミサ後はコロナ禍では自粛していたささやかなパーティーを開いた。補佐司教を囲み軽食を取りながら歓談したり、歌を歌ったり和やかな雰囲気でお祝いした。



ひとつになってみなで祈りを唱える受堅者たち

受堅者の感想

堅信の勉強で聞いた、神様から与えられた命を大切にすることを心に留め、祈りの中で過ごしていきたいと思えます。



◆ 大阪田辺・平野合同 ◆



好天に恵まれ、紅葉で色づく木を背景に記念撮影

◆ 玉造ブロック ◆

11月26日(日)11時~カテドラル聖マリア大聖堂において前田万葉大司教、玉造教会からヌノ・リマ神父、ホセ・ラモン・ルビオ・モルデン・ハウエル神父、セサル・ボルメント神父、馬込新吉神父(明星学園)生野教会から申城吉神父により合同堅信式が行われた。

受堅者15名(玉造教会12名:中高生7名、成人5名、生野教会:成人3名)大司教様は、使徒言行録(1章8節、2・2~4、8・14~17、19・1~7)を引用され、堅信の起源をお話になった。「これから堅信を受ける皆さんは、司教の按手と聖香油の塗油によって聖霊を受けキリストの姿に似る者となり、キリストの教会のより完全な一員となる。わかりやすく言えば大人の信者、キリストの証し人(王様)になる。

この証し人には3つの役割がある。預言職、祭司職、王職です。今日は、王であるキリストの祭日ですから、王職について考えてみましょう。『王堅信や 信望愛の 十一月』王様であるキリストを堅く信じ、11月の死者の月・諸聖人を信じ希望をおき、愛する『証し人』になるように、堅信式を行きましょう」と、お話しくくださった。

「王であるキリスト」主日ミサの中で行われた堅信式のためか、参加人数も多く、ミサ時間も長くなった。(ブロック行事の折は、受堅者と関係者のみの堅信式)個人感想としては、受堅者の方のために「ミサに与かる全ての方がともに祈る」祈りの時間となり良かった。

成人の方は「神様への意志を堅くし、自分を見直し信仰の道を歩む」と、堅く、受堅されました。中高生のこどもたちは「自分でも堅信を受けたい」という人もいれば保護者の方々が「受けなさい」と言って受けた人もいます。しかし、進学したので少しずつ教会の活動に参加し、自分のできることを見つけて、教会学校のリーダーをしたり、教区の活動に参加して輪を広げたりと、自分の足で立ち上がろうとする姿が増えたと聞いている。「どうして受けようと思ったの?」「堅信を受けての決意表明は?」と聞かれると言葉で答えるにはまだまだ難しい部分もあるが、活動を通して答えてくれていると感じる。さまざまな教会の信徒の皆さまと手を取り合い共同体が一体となればと願う。

養成担当者からひとこと

玉造教会養成担当者:現在中高生は32名、堅信を受けた7名は日曜学校から関わりを持ち見守ってきました。これから生野教会と情報を交換し、交流を深めていきたいと思っています。

受堅者の感想

- ・中高生:これから侍者とか皆に声をかけ誘っていきますので、温かい目で見守ってください。生野教会の方へも声をかけます。のでよろしくをお願いします。
- ・成人受堅者:うれしい恵みを受けました。これから頑張ります。

11月19日(日)10時30分~、酒井俊弘補佐司教と酒井淳神父の共同司式のもと、大阪田辺教会において行われた。

受堅者は11名。(大阪田辺教会6名、平野教会5名)この日読まれた三つの朗読は、いずれも聖霊に関わるものであり、聖霊を受けるとどうなるのかということが示されている。

特に第二朗読では聖霊によらなければ、だれも「イエスは主である」とは言えないということ、また福音では聖霊を受けて罪の赦しを受ける恵みが語られた。

堅信の儀で行われる《洗礼の約束の更新》の中で、受堅者が「信じます」と唱え、続いて行われる《按手》によって神を知る恵みを与えられる。

聖霊の種を育てていけるかどうかは、回りの人の助けもあるが、おのおのの責任にかかっている。

決して偉大なことをするのではなく、その日、出会う人びとが『私に何を期待しているのか』という囁きを無視することなく育てていくことが大切であり、その結果として聖霊が働きかけてくれるのである。貧しい人びとに日ごとの糧が与えられるように祈ることは大切であり、より多くの人びとのために心を開いていくことが求められている。

酒井司教は、「堅信の秘跡に与えられる皆さんは、生まれた場所も年齢も異なるが、堅信の秘跡を受けることができるのは、一生に一度である」と説教で話された。

当日の様子

堅信の秘跡について学びを積み重ねてこられた受堅者の皆さんには、堅信式の当初、緊張の様子が見受けられたが、司教様が優しくお声を掛けてくださり按手されると、緊張感は和らぎ喜びに包まれていく様子が見て取れた。終始穏やかな堅信式の流れの中で聖堂内には喜びと恵みが満ち溢れ、信徒一同にとっても大きな喜びの一日となった。

受堅者の感想

堅信の準備会では、初聖体のときの勉強よりももっと詳しく神様のことを知って、より身近に存在を感じることができるようになりました。今後の教会での活動を通して更に神様に対する思いを強め、感謝の気持ちを持って兄弟姉妹と共にこれからも共同体の一員として励んでいきたいなと思います。



大司教、司祭たちより按手を受ける受堅者たち



聖フランシスコ病院修道女会

日本宣教開始 75 周年記念ミサ

キリストの癒しをもたらす

のが修道会のカリスマ

11月4日(土)聖フランシスコ病院修道女会聖堂において、前田万葉大司教司式のもと記念ミサが行われた。

10年近く前、約20年間の中国宣教中に、中国から退避の体験を共にした淳心会の神父様から「医療奉仕」を学ばせられた。私どもは、75年前(1948年)に大阪教区に受け入れられた。当初は日本人の会員は一人も無く、このたび、第一期生が初誓願から70年を迎え、共に祝い、恵まれております。時代は移り、高齢化と新しい召命の減数には当会も無縁ではありません。私たちが、淳心会の会員皆さまの近くで、これまでよく計らってくださいました。

聖フランシスコと本会の創立者ベレンスマイヤー神父の精神のもと、人びとの中で癒しの奉仕を果たしたいと姉妹とともに働きかけている。

当日は淳心会、聖母奉献会、フランシスコ会、本会(ドイツ・アメリカ一行)と使徒職関係者とともに心をつにしました。

(一文 日本管区長 古川正子)

この記念すべき節目の行事は、若い会員たちによる企画実行委員会のリードで会場の設営などを含めてすべて執り行われました。前田枢機卿様より「天高く日本宣教七五年」の句をいただき、神の計らいを歴史に思い、感謝しながら世代交代の時機到来を予感する、晴天の日となりました。コロナ禍の自粛から少し解放され、数年ぶりの祝賀会も有難い喜びを味わう好機となりました。

来賓者は、姫路に管区本部を置き、共に日本宣教75年を迎えた淳心会と聖母奉献会の皆さま、またフランシスコ会、使徒職関係者として当修道会の総本部ドイツから総長他一行、そして母管区アメリカからの訪日者を含めて約30人でした。日本管区の会員は、現在、アメリカ、韓国、ベトナム、ドイツに派遣されています。が、志願者、修練者をはじめ会員55名が仁豊野に集うことができました。

前田枢機卿様にいただいた「キリストの癒し」の現存文「化の日」というメッセージは、私たちのモットー、神が共にいてくださる「希望をもって未来に進もう!」に呼応し勇気をいただきました。どこにいても何をしても「キリストの癒し」の現存」というカリスマに忠実でありたいとあらためて決心するこの記念の時、心からの感謝を込めて、皆さまと皆さまに御礼申し上げます。



ラジオ

信仰の時間

祈りからはじまる



(11月26日放送分)

Sr 戸村晴美

(師イエズス修道女会・みなとブロック協力)

11月26日は、わたしたちの創立者、福者ヤコブ・アルベリオーネ神父の記念日です。

アルベリオーネは、1884年にイタリア・クネオのサンロレンツォ・ディ・フォッサーノで生まれました。すぐに洗礼が授けられ「ヤコブ」という洗礼名をいただいた。働き者で信心深い両親に育てられました。

幼いころからカトリックの司祭になりたかった彼は、1896年、12歳の時、父親に連れられて小神学校に入学します。大きな希望をもって司祭への道を歩み始めた彼でしたが、4年後、この小神学校を退学させられます。

「仲間の誰かが授業中に机の下から回した一冊の本を読んだことが原因だった」と後に彼は回想しています。「一冊の本によって人生を狂わされた」のです。

19世紀と20世紀を分ける夜、彼は特

別な体験をしました。何時間にもわたって祈っていた彼に、特別な光が差し「みな私のもとに来なさい」との声が聞こえました。「神が、新しい世紀の人びとをご自分のもとに招いておられる」ことを悟った彼は、祈りの中で新しい世紀の人びとのことを思いめぐらしました。

この夜の礼拝の前に、彼は「悪の力に勝つためには教会の団結が必要だ」という有名なカトリック学者の講演を聞いていました。

そのころ、社会では印刷技術が進歩し、多くの悪い印刷物も出回るようになっていました。悪い印刷物が人びとにどんな影響をもたらすかを体験によって知っていたアルベリオーネの中で、「善い印刷物を通して、人びとを神に導く」という方法がうっすらと浮かび上がってきました。この時、アルベリオーネはまだ16歳の神学生でした。

1914年7月、アルベリオーネ神父は「ケラスカ広場」というところに一軒の家を借り、最初の印刷機といくつかの備品を購入しました。8月20日、小さな「労働者印刷学校」を発足させました。

これが現在、全世界に広がるパウロ家族の長兄「聖パウロ修道会」の始まりです。翌年、聖パウロ修道会と同じ使命を持つ「聖パウロ女子修道会(女子パウロ会)」を、18年には「聖パウロの協力者会」、24年には「パウロ家族を祈りで支える」「師イエズス修道女会」を創立しました。さらに2つの女子修道会と4つの在俗会を創立しました。

青年時代に一冊の本を読んだことによって、神学校から追い出された彼は、「最新のメディアを通して全世界に福音を伝える

組織を創立する」使徒となったのです。

彼は生来健康に恵まれませんでしたが。結核にかかり死線をさまよったこともあります。しかし、強い意志をもって病苦に耐え、メディアによる福音宣教の使命に生きてきた人でした。その尽きることのない力の秘訣は、あの19世紀と20世紀を分ける夜に体験した「神からの特別な招きの体験」と神への信頼、また1日5時間にも及ぶ「祈り」でした。

日本に来られた時、一人の志願者が、誰もまだ起きていない暗いうちに、起きて祈っていた姿を目撃しています。すべての働きの源泉は「祈り」からきていました。

1969年6月に、時の教皇パウロ六世がアルベリオーネ神父について次のように紹介しています。

「彼をごらんください。慎ましく、寡黙で、疲れを知らず、いつも注意深く、いつも深い考えのうちに心を集中しています。『祈り、働け』という伝統的な言葉通り、その考えは祈りから働きへと移っていきます」。

アルベリオーネ神父は「神がわたしたちに示された20世紀の驚異」と呼ばれています。

毎週日曜日 5:50~6:00AM 放送

1月担当: 春名昌哉神父

ABCラジオ(朝日放送) AM1008/FM93.3

スマホアプリのradikoでも聴けます。

オブレート会来日 75 周年にあたって

「有り難い」は「当然」の反対語

11月23日、カトリック徳島教会で、オブレート会来日75周年記念式典が行われた。各地(豊橋、伊丹、高知、古賀「福岡」)から約100人が集い、感謝のミサをささげました。その後聖堂で、BGMとしてオブレート会の歌と共に懐かしい写真を取り入れたスライドショーを見聞きし、代表者の挨拶がありました。そして信徒ホールでの茶話会で、コロナ禍の影響でなかなか出会えなかった人たち同士、懐かしい話に花が咲き、久しぶりに出会えた喜びに満たされていました。晴天に恵



日本のオブレート会の宣教は75年前に始まり、地元・貧しい人びと・若者・特に子どもたちの生活に溶け込んできた。これからも教区の司牧や幼稚園に留まらず時代の流れを読み、託された使命を献身的に奉仕することができるように。

まれ穏やかな気候の一日で、勤労感謝の日でもあり、とにかく「感謝」の一言に尽きる雰囲気にも包まれていました。コロナ禍のことがあつてから、今までできていたことが当然ではなかったことに気がつき始めています。こういう記念式典開催もままならぬ状況でした。朝起きられることも、歩けることも、生きていくことさえも当たり前ではなかったのかもかもしれません。このオブレート会来日75周年もやはり当然ではなかったのでしょうか。当然や当たり前前の反対は、奇跡、特別なこと、

まれである、滅多にない、有ることが難しい、です。有ることが難しい……それは漢字で「有り難い」と書いて「ありがたう」につながり、それは感謝を表す言葉になります。どんなことにも当然や当たり前だとは思わないこと、それが「有り難い」という感謝の言葉につながります。今回のようにオブレート会が日本に来て75年を迎えられることは、まれで、滅多にないことで、特別なことなのです。それはやはり、色んな人びと(すでに帰天した人びとも含め)の助けや、支え、導き、励まし



があつてこそ、何よりも神様の愛の導きによる、奇跡の75年間の道のりで、それこそ「有り難い」ことでした。その道は、先輩方がさまざまな人びとと一緒に荒地や草地を踏みつけて、後から来る人たちが歩きやすいように、地盤を固め、道を作ってくれました。その道を私たちは通ってきました。そしてこれからは、私たちも同じように、混乱や紛糾に満ちあふれたこの世の大地を、皆さんと一緒に踏みつけながら、福音という道を造って参りたいと思っています。一人ならそれは単なる足跡に留まりますが、皆さんと一緒になら希望につながる道になっていきます。そしてその道は、決して当たり前前ではない、「有り難い」奇跡の希望の道になるに違いありません。このように皆さんと出会えて一緒にいることが当然ではないのなら、皆さん一人ひとりの存在が本当に「有り難い」と心から感じています。前述した道造りのために、これからも一緒に歩んでくださいますようにと切に願っております。今度の100周年を迎えてそれを祝う人たちが、その道を歩んで来られるように……。

(文) 本会地区長
ブラザー八木信彦



本会員・関係者・信徒とともにつどう 75周年記念祝賀会

淳心会は日本での宣教が始まって75周年を迎えました。私たちの宣教の始まりは、姫路を拠点に75年前にさかのぼります。当時は日本の終戦後で、物資不足や食糧不足が深刻な状態でした。その中で当時の淳心会の会員たちがとびこみ、終戦後の日本社会の中で福音宣教が始まりました。さまざま形で日本社会の中に入っていく、今ではインドネシア・フィリピン・コンゴ民主共和国・中国・日本の会員、またブラジルから来日した1名の神学生

11月23日、前田万葉大司教様とエドガル・ガクタン司教様司式のもと、日本で宣教活動を行う淳心会の会員と信徒たち、またお世話になった方々と共に、感謝のミサと記念祝賀会が行われた。

カトリック淳心会

日本宣教

75周年記念




がいます。

私たちのミッションは共同宣教司牧、働く青年(YCW)への協力、諸宗教との対話、外国人移住移動者の司牧、学校、オリエンズ宗教研究所と通信講座の運営を主に取り組み、またこれらの各分野で、谷間に追いやられた人びとを顧慮し、正義と平和に取り組むこととしております。これからも私たちが奉獻の決意を新たにし、聖霊の光に照らされて福音を絶え間なく述べ伝え、教会に仕える者としての使命を忠実に果たすことができますように皆さま、どうぞ共に祈りください。

(文) 淳心会 後尾てい



アフターコロナの活動をみる



新型コロナウイルスの5類移行にともない、ソーシャルディスタンスに気を遣っていたカトリック信者たちも、ふたたび集まったり、イベントを楽しんだり、ともに共同作業に取り組む動きができました。一方、世界では「コロナ禍」の終息とともに、ウクライナやパレスチナで戦闘が激化するなど、悲惨な事態が進展しています。国内においても、少子高齢化がすすみ、経済的な格差が広がっていくように課題も大きくなるばかりです。私たちカトリック信者は、このような時代にあって、どんなことができるのでしょうか。今回はアフターコロナの活動について紹介します。

コロナ後の活動 — 同伴、道伴、共に歩む 生野教会 申 城吉神父



私は今年の11月の1週間、フランススコ会日本管区開催の例年の黙想会に参加しました。今回の黙想会の指導はカルメル会の神父様でした。神父様は最初の講義で自己紹介をされながら、ご自身は黙想指導者というより、皆さんのような司祭修道者として、一週間皆さんの霊的同伴になるとおっしゃいました。私にはこの言葉がとても印象的でした。

私が神学生だった30年前には、修道会養成、神学生教育においていつも霊的「指導」という言葉を使っていました。養成担当者の指導の下、被養成者はいつも指導を受ける立場でした。しかし、時代が変わり、修道会養成において、指導という言葉の代わりに「同伴」という言葉を使うようになり、養成の内容や方法も大きく変わりました。かつては一方的な指導や教育が修道会養成方法の主流でしたが、今は養成者と被養成者が共に修道生活という道を歩んでいく「同伴」という言葉を使うこともあります。

このような変化の根拠は、ルカの福音書24章エマオに現れたイエス様が弟子たちと共に道を歩み、弟子たちと話を交わされた内容についての省察から出ています。

「イエスご自身が近づいてきて、一緒に歩き始められた。」

そう！ イエス様と共に歩き、話を交わし、教えを受けた弟子たちは証言します。

「道で話しておられる時、また聖書を説明してくださった時、私たちの心は燃えていたのではないか。」

これがエマオに現れたイエス様の養成方法でした。



コロナ後の教会の司牧活動も、以前とは違う多くの挑戦があるのが事実です。

コロナ前より信者数はしっかり減っており、以前にやっていた司牧活動をそのまま再現するのは容易ではない状況です。

そのような挑戦と困難の前に、私たちが再び立ち上がるためには、新しいパラダイムが必要だと思います。

幸いにも、カトリック教会は今年バチカンで始まったシノドスのテーマを「共に歩む」と定め、今後教会が直面する問題を神の民全体が共に歩きながら解決策と一緒に模索してみよう」と討論中です。

ですから、コロナ後の教会の活動は、教会全体が「共に歩く仲間である」というアイデンティティを確認する際に、より確実で具体的な未来が開けるのではないかと思います。

3年半におよぶコロナ禍は、これまで経験したことのない災禍でした。社会も教会も多くの忍耐と犠牲を強いられました。

そして、今後も取り組むべき課題は山積しています。神様のみ旨がどこにあるかを見極める知恵と光を、祈り求めていかなければなりません。

聖霊の息吹によって「時のしるし」を読み取り、新しい歩みを始めましょう。今年、わたしたちは「大阪高松大司教区」としてスタートしました。「共に歩む教会」をめざす「新生の時」となるように願います。

バザーについて

シナピス事務局 山田 直保子

新型コロナウイルスが5類に分類され、各地ではコロナ前の活動に戻りつつあります。今年は様々な小教区でバザーが再開され、たくさんの人たちであふれかえりました。

難民移住者たちも、シナピスホームでお出ししているメニューからバザーに呼んでいただけることが多くなり、日程が重なりお断りしないといけないこともある現状に嬉しい悲鳴をあげています。

ある小教区では、移住者の名前とメニューを指名で電話くださり、そのことを伝えると本当に嬉しそうだったのが印象的でした。

つらい環境で毎日を生きている当事者たちは、おかげさではなく、本当に生きる力を与えてもらっていると思えるのです。

何度か呼んでいただくうちに、準備も順調にこなせるようになってきました。衛生面や盛り付け方に特に厳しい私は、疎まれながらも今後につながるように願いながら、アドバイスしていきました。

会場では、たくさんのお客様とコミュニケーションをとって、難民移住者の現状を当事者たちと一緒に訴えたり、メニューの説明をしながら笑いあったり。一番は、直接食べた皆さんから「おいしかったよ」「これ美味しかったからもう一つください」「持って帰って家族に食べさせたい」などのお声を当事者たちが聞けるのが醍醐味ですね。



準備は毎回大変ですが、きらきらと輝く笑顔を見ると、「本当に良かった！」と疲れも飛んでいきます。

*バザー参加の実績：夙川教会（5月21日、11月19日）

芦屋教会（11月3日）、生野教会（11月12日）など



平和は人類共通の願いです！

「2000万人の冥福を祈る会」によるリーフレット作り

今、世界のいたるところで、平和が危ない！

戦争は悲惨です。

2000万人の冥福を祈る会 龍野 信隆

「アジア・太平洋地域戦争犠牲者一人ひとりの冥福を祈る会」（略称、「2000万人の冥福を祈る会」）は1995年、戦後50年を機にカトリック堺教会およびカトリック泉北教会の有志によって活動が始まりました。

先の大戦では日本の侵略により、2000万人ともいわれる人たちが犠牲になっており、その一人ひとりの苦しみや悲しみに思いを馳せ、冥福を祈るとともに、再び戦争を起こしてはならないと決意しました。

現在、ロシアのウクライナ侵略、イスラエルとハマスの戦闘など、各地で戦闘、紛争が絶えません。

多くの人たちが亡くなり、傷ついています。

日本は平和憲法を無視したかのように、軍備拡張を続けており、危機感を感じます。そのため、「2000万人の冥福を祈る会」では、会の成り立ちや今も続く戦争の状況をお伝えするためのパンフレットを製作しました。多くの人たちに、このパンフレットを参考にして、考えてほしいのです。

武力によらない平和の実現に向けて、改めて意思表示をしてほしいと願っています。



「命の終わり近くの問題について考える」 スピリチュアルな痛みの理解

サクラファミリア主催講座
松本信愛神父 講演会 報告

2023年11月18日、ガラシア病院チャプレンとして、長年ホスピス病棟で霊的・肉面的に患者によりそっておられる松本信愛神父をお招きし、私たち誰もが、いつかたどりつく「命の終わり近くの問題」についてお話いただいた。

最期が近づいた時、自分の死、または愛する人の死を目の前にして、一体何ができるのか。松本神父は、医学的な観点や理屈では解決できない気持ちのレベルの問題を解決する「スピリチュアルケア」についてお話しくださいました。



90年代末、WHO(世界保健機関)の健康の定義を巡る議論に、「スピリチュアル」という言葉が登場し、

「ケアができたといえる。いわゆる認知症といわれる高齢者の介護においても、その人の気持ちを大切に「スピリチュアルケア」が必要となる。年齢を重ね、脚力が弱ったお年寄りには、歩調を合わせて歩く。脳も同じで、年齢に応じて機能が低下しているだけである。その能力に合わせて行動し、言動のうちにある気持ちを理解することが大切なのである。

「カテキズムの学び」

第47回 エウカリスチアの秘跡(3の3)

*クラスは右のQRコードから



エウカリスチアの秘跡の最終回の講座では、聖体拝領についてカテキズムが述べている具体的な点をお話しました。

信者は聖体をふさわしく拝領する準備として、自分が属する教会の定めに従い、飲食物を控えなければなりません。尊敬を表す態度や身なりをして、わたしたちの賓客になられるキリストをお迎えする厳粛さと喜びとを表現しなければなりません。(1387番)

現在は、「至聖なる聖体を拝領する者は、聖体拝領前少なくとも1時間前、水および医薬のみを除き、一切の飲食物飲を控えなければならない。…高齢者、病者及びその看護人は、1時間以内に何かを摂取したとしても至聖なる聖体を拝領することができる」(教会法919条1,3項)とされています。

「女性はベールをかぶるべきでしょうか」という質問がありました。現在はまったく自由ですので、かぶってもかぶらなくてもかまいません。

からだの糧が体力の消耗を回復させるのと同じく、聖体は、日常生活で弱まりがちな愛を強化します。そして活力を取り戻したこの愛は、小罪を消します。(1394番)

聖体拝領をすれば自動的に罪がゆるされる…ということではなく、言い換えれば、「聖体拝領に一層の信心をこめるよう努めることで罪を消すほどの愛の活力を取り戻す」ということです。

プロテスタントの諸教団の聖餐式についてもカテキズムは言及しています。

宗教改革によって生まれた、カトリック教会から分離した諸教団は、とりわけ叙階の秘跡の欠如のために、聖体の神秘の本来の完全な本体を保ちませんでした。この理由で、カトリック教会としてはこれらの教団と聖体拝領をともにすることはできません。(1400番)

プロテスタントの聖餐式でカトリック信者がパンやぶどう酒をいただかないこと、逆にプロテスタントの方にミサでの聖体拝領を控えていただくことは、聖体を大切にするためだけでなく、お互いの信仰と伝統を尊重するべきだからでもあります。

(文 酒井俊弘補佐司教)

正解のない「命の終わり近くの問題」を、ケアをする側、される側、それぞれ立場で、どのように心の準備をすればよいのか、具体的に考えるきっかけとなるお話であった。あまりなじみのない「スピリチュアルケア」であったが、傾聴の心構えなど、すぐに役立つことも多くあるように感じた。この学びを、是非活かしていきたい。

訃報

Sr マリア・クララ庄野順子(大阪聖ヨゼフ宣教修道



女会は、2023年11月15日、ドムスガラシアで老衰のため帰天。徳島県出身。94歳。奉獻生活66年。1957年8月に初誓願。

長年、百合学院小学校の責任者として学校教育に情熱と使命感をもち、温かい対応で児童や職員に関わった。また、みこころ幼稚園、百合学院幼稚園の園長を務め、園児のために、ユーモアとやさしい微笑をもって

「生きる」—難民移住者

ユニークなボランティア

去年の春、大学時代のクラブの同窓会があり数十年ぶりに顔を出した時のことです。

そこで村木正靖さんという先輩に再会しました。村木さんは強い正義感の持ち主で、威勢のよい関西弁で歯に衣着せぬ物言いをする人でした。

同窓会場で友人と談笑していると背後から懐かしい村木さんの声が聞こえてきました。と同時に、鈴の音がして振り返ると村木さんは白杖を握っていました。「え？



「あっこちゃんの活動に

興味あつてね」と言われたので、私はシナピスを案内し、スタッフや難民移住者の皆さんを紹介しました。村木さんは「私にできることと

「頭痛が治りました」と喜び、村木さんが来る日には手料理を振舞ってくれる人も出てきました。

「私にできることと、難民の方がたにマッサージのボランティアをするのはどうでしょう」と提案し、ほどなくして村木さんはマッサージ専用ベッドとクッションをシナピスに寄贈し、月に一度のペースでマッサージに来てくれるようになりました。

「教会のバザーな感じでワンコインで足湯マッサージやって収益を難民支援に回すのもええすねえ」と村木さん。ええすねえ、やりまひよ、是非とも。

「文シナピス事務局(文シナピス事務局)

カトリック墓地 納骨堂・納骨所 使用者募集

大阪高松教区の信者の方のみがお申込みいただけます。詳細は資料をお送りさせていただきます。ほかに、インターネットでもご覧いただけます。

資料請求やお問い合わせは 教区本部事務局 総務課 管理部門 06-6941-9705

来見なさい



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの第2編「キリスト教の神秘を祝う」

日時 1/25(木) 18:30~20:00

講師 酒井俊弘補佐司教

場所 サクラ ファミリア /YouTube配信あり

主催 使徒職養成委員会

問 ☎06-6941-9700

2023年度第6回諸宗教活動

◆神道との対話：神社訪問

テーマ 神社を訪問し神職に出会い、神道について学ぶ

日時 1/27(土) 14:00~16:00

講師 木田孝朋 権宮司 安倍初男 禰宜

場所 生田神社/〒650-0011 兵庫県神戸市中央区 下山手通1-2-1

問 ☎06-6941-9700

ird-ecm@osaka.catholic.jp

主催 諸宗教対話委員会

2024年キリスト教一致祈禱週間 共同礼拝

「神である主と隣人を愛しなさい」全世界の教会と一緒に、教派をこえて、キリストに従って歩み、一つに結ばれて、神の愛を証するように祈ります。

◆神戸

日時 1/19(金) 18:00~19:15

場所 カトリック神戸中央教会

◆和歌山

日時 1/21(日) 15:30~16:45

場所 カトリック和歌山紀北教会 屋形町聖堂

◆大阪

日時 1/25(木) 18:30~19:45

場所 大阪高松カテドラル 聖マリア大聖堂

主催 エキュメイズム委員会

問 諸宗教対話委員会

☎06-6941-9700

ird-ecm@osaka.catholic.jp

サクラ ファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 2/5(月) 18:00~19:30 (夜の部)・2/6(火) 10:30~12:00(昼の部)

お話 ヨゼフ・プロデリック神父 (和歌山紀南ブロック・コロンバン会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「福音書における祈り」

日時 1/15(月) 13:30~15:00 (1~3月開講)

参加費 ¥500

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべイエス』

日時 1/10(水) 10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 1/15・1/22(月) 17:00~18:30

松浦信行神父◆「新生の明日を求めて」読書会

日時 毎週(月)(第2は休み) 14:00~15:30

松浦信行神父◆聖書通読会

日時 毎週(木) 10:00~11:30

松浦信行神父◆「YOUCAT(青年向けカテキズム)」勉強会

日時 毎週(金) 19:00~20:00

祈りのよる◆灯りをかこみ、ともに祈る静かな時間を

日時 毎月17日 19:00~19:30

問 サクラ ファミリア

☎06-6225-8871

f.sacra@osaka.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会

日時 2/3(土)~2/24(土) 4回 16:30~18:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎0798-22-1649

六甲教会

日時 2/4(日)~2/25(日) 4回 14:00~16:00

参加費 ¥5,000(2名)

問 ☎078-851-2846

renraku@rokko-catholic.jp

※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家

◆日帰り黙想会

日時 1/25(木)・1/26(金)

指導 染野治雄神父(1/25) 山内十束神父(1/26)

参加費 ¥3,500

◆カトリック教会のカテキズム

日時 1/17(水) 10:00~12:00

指導 染野治雄神父

参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本

日時 1/17・31(水) 10:00~12:00

指導 山内十束神父

参加費 ¥1,000

問 宝塚黙想の家

☎0797-84-3111

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音

日時 第3(金) 10:00

場所 神戸学生青年センター

参加費 ¥1,000

主催 神戸国際支縁機構

問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える

15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土) 14:00~16:00

場所 大阪YCWセンター (またはZoom)

問 レネ神父・水元

☎072-232-8063

osakaycw@gmail.com

HPhttp://www.ycw.jp/

要約筆記グループ「エフファタ！」練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

対象 要約筆記に関心のある方。フリーソフトcaptiOnlineを使いパソコンまたはスマホで練習します。

日時 毎月第2(水) 10:00~12:00

場所 教区本部事務局

1階会議室

主催 要約筆記グループ

「エフファタ！」

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い

いつ来てもウェルカム

当日キャンセルOK

日時 毎月第3(日) 14:00~16:00

場所 姫里集会所

参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで

問 ☎078-583-2525

yassan.yoshikawa@nifty.com

力障害大阪フレンドリー

◆点字部の勉強会

対象 パソコン点字に関心のあるかた、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時 毎月第2(火)

13:30~15:00

場所 姫里集会所(奇数月)

北須磨教会(偶数月)

申込 笠松まで

問 ☎090-5661-4324

072-722-0271

kasamatsu-yukisan

@iris.eonet.ne.jp

手話に興味をお持ちの方へ◆聞こえない人も聞こえる人もボランティア会の見学にいらしてください

内容 聖書の学び・教区活動の手話通訳者派遣 ※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)

10:00~14:00

場所 姫里集会所

主催 大阪教区聴覚障がい者ボランティア会

問 障がい者委員会

dis@osaka.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い◆大阪梅田教会

日時 第1(土) 14:00

1月はお休み

問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火) 13:00~14:30

問 佐藤 ☎079-435-1157

カトリック 大阪高松大司教区の新サイトを公開しました

ここからQRコードを読み込んでください▶

https://ostk.catholic.jp



大阪のカトリック病院 ガラシア病院

特徴的な医療 ホスピス・糖尿病内科 リハビリ・神経内科 肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会 理事長 前田万葉 大司教 チャレン 松本信愛 神父

〒562-8567 箕面市粟生間谷西 6-14-1 ☎072-729-2345

医療法人ガラシア会

ひとりて悩まないで

~私たちに聴かせてください~

カトリック大阪大司教区

ハラスメント相談窓口

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間

月・火・金曜日(祝日を除く)

午前10時~午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。秘密は必ず守られます。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年も、大阪高松大司教区が実質的に新しい教区として動き始めます。読者の皆さまに支えられてきました「大阪カトリック時報」も4月号からは「大阪高松教区報」としてスタートします。▼「ファーストペンギン」をご存じですか? ペンギンは集団で行動しますが、エサを求めて一斉に海に飛び込むことはありません。天敵に襲われてしまえば、そこから、一羽が最初に飛び込み、安全が確認出来たら後続が飛び込みます。ビジネスの世界では、リスクを恐れずに未開拓の分野に挑戦する人を「ファーストペンギン」と呼びます。▼日本のカトリック広報におけるファーストペンギンを目指します。(広報委員会 川柳裕明)

1月司教予定

(下記「行事等日程」以外)

- 1/6 修女連ミサ(+M)
 - 1/7~8 旧高松教区司祭新年の集い(+S)
 - 1/13 教区幼保連盟総会(+S)
 - 1/14 教区宣教司牧評議会(+M)(+S)
 - 1/17~18 東京神学院静修(+S)
 - 1/18~21 高雄(台湾)叙階式(+S)
- +M=前田万葉大司教 +S=酒井俊弘補佐司教



行事等日程

1月		18 木	クリスマス一致祈禱週間(~25日迄) 神のこぼの主日
1 月	神の母聖マリア 世界平和の日 (教区本部事務局 2024年始業)	21 日	10時半 教区月修
5 金		24 水	世界子ども助け合いの日(献金)
7 日	主の公現	28 日	聖トマス・アキナス 司祭教会博士 前田万葉大司教霊名
8 月	主の洗礼	2月	
11 木	[常任司教委員会]	1 木	[常任司教委員会]
14 日	14時 第22回 教区宣教司牧評議会	2 金	主の奉獻
17 水	教区新生の日(1・17)	3 土	福者ユスト高山右近殉教者 ユスト高山右近列聖祈願のつどい
	10時 責任役員会	5 日	日本26聖人殉教者
	13時半 第201回 司祭評議会	7 水	10時 顧問会